

平成 29 年度礼文町「地域おこし」をめぐる
地域住民の意識調査

集計結果報告書

平成 29 年 11 月

礼文町地域おこし協力隊

片桐 勇人*

* 本報告書に関する問い合わせ先：zurqnd@gmail.com

[目次]

調査の概要	4
調査の背景	4
本報告書作成の主な狙い	4
期待される本報告書の具体的な使い方	4
調査方法	5
集計の方法	6
集計結果の要約	6
ご自身について	7
回答者の自治会	7
問 1-1. 年齢	7
問 1-2. 性別	8
問 1-3. 居住地域	8
問 1-4. 出身地	9
問 1-5. ご職業 掛け持ちの場合は、ご自身が従事している時間をもっとも長い職業 1 つに丸をつけてください。(パートの場合も、該当する職種に丸をつけてください。)	9
問 1-6. 今後の礼文島の滞在見通し	10
問 1-7. (島外からの移住者のみ) 礼文島に移住して何年ですか。	10
「地域おこし」について	11
問 2-1. 地域の仕組みや地域の雰囲気は自分や仲間の方で変えることができますか。	11
問 2-2A. あなたは今現在礼文町でイベント等何か新しいことをやってみたいと思いますか。	11
問 2-2B. どんなことをやってみたいですか(自由記述)。	12
問 2-3. 礼文町に「こんな店あったら利用したいな」と思うような店はありますか(カラオケボックス、イタリアン、映画館など)。自由にお答えください。	14
問 2-4A. 現在、ご自身が実際に企画あるいは実行している地域の活動(イベント等)はありますか。	16
問 2-4B. それはどのようなものですか。お答えのできる範囲で教えてください(自由記述)。	17
問 2-5. あなたは礼文島の「地域おこし」に興味がありますか。	19
「地域おこし協力隊」について	20
問 3-1A. 現在礼文町は、都会から地域に人材を呼び込み、定住してもらうための施策である「地域おこし協力隊」事業を実施していますが、あなたは協力隊事業のことを知っていましたか。	20
問 3-1B. あなたは礼文町で活動する「地域おこし協力隊」と実際に関わったことはありますか(仕事・プライベート問わず)。	20
問 3-1C. 「協力隊と実際に関わったことがある」と答えた方に伺います。協力隊員と接していく中で、ご自身の意識は変わりましたか。	21
問 3-1D. 変わった点について、具体的な内容を教えてください(自由記述)。	22

問 3-2. 協力隊等、外部から来た人材に対して期待しますか。	24
問 3-3. 差し支えなければ具体的な内容を教えてください（自由記述）。	24
礼文島の社会関係資本について（II 期のみ質問）	27
問 2-6. あなたはご自身が住む地域が好きですか？	27
問 2-7. あなたはご自身の地域を誇りに思いますか？	27
問 4-5. 一般的に、他人を信用することはできますか？1～9 の数字でお答えください。	28
問 4-6. 地域の人々は、互いに信頼できる人々であると思いますか？	28
問 4-7. ご自身に何かあった時、地域の人々に助けてもらえると思いますか？	29

調査の概要

調査の背景

現状、礼文町地域おこし協力隊¹（以下、「協力隊」）の活動においては、(1)協力隊や協力隊活動の地域住民への十分な周知 (2) 協力隊活動に地域住民を巻き込むこと、の2点が課題となっている。

また、協力隊の地域おこし活動を今後拡大し、「地域おこし」を盛り上げていくには、これまで礼文町役場・教育委員会・NPOの各部署で活動してきた礼文町協力隊が「地域おこし」をする主体として、全体で活動することが重要である。

実際に協力隊が全体活動を行い、(1)(2)の課題に取り組むにあたり、具体的に(a)礼文町に対してどのような「地域おこし」をしていけばよいのか、地域住民は協力隊に何を望んでいるのか、を知ることが重要であるが、礼文町の「地域おこし」に関する既往の意識調査は存在しない。そこで、(a)を明らかにするために本調査が企画された。

また、調査結果は協力隊のみならず、「地域おこし」に関心のあるすべての人に有用性があると考えられるため、結果を広く公表することにした。

本報告書作成の主な狙い

- ・ 地域住民の「地域おこし」の意見収集（問 2-1、2-2a、2-2b、2-3、2-4a、2-4b、2-5）
- ・ 地域住民の、協力隊等外部人材に対する意識調査（問 3-1a、3-1b、3-1c、3-1d、3-2、3-3）
- ・ 礼文町の社会関係資本の測定（問 2-6、2-7、4-5、4-6、4-7）
- ・ 地域住民を含む礼文町の「地域おこし」の機運を盛り上げること

期待される本報告書の具体的な使い方

- ・ 住民の「地域おこし」のワークショップを企画するための基礎資料
- ・ 島でイベントを企画する際の参考資料
- ・ 島で店を開こうとする際の参考資料
- ・ 地域住民がどんなイベントを企画・参加しているのかを知る

・・・など²

¹ 「地域おこし協力隊」制度とは、人口減少や高齢化等の進行が著しい地方において地域外の人材を積極的に受け入れ、地域協力活動を行ってもらい、その定住・定着を図ることで、意欲ある都市住民のニーズに応えながら地域力の維持・強化を図るために設けられた制度（一般社団法人 移住・交流推進機構より）。礼文町では平成 27 年度に 1 名、平成 28 年度に 4 名、平成 29 年度に 3 名を新たに受け入れ、平成 29 年度現在 7 名の協力隊員が活動している。

² 本調査の結果を礼文町や他地域の「地域おこし」に活用した場合、報告者片桐（zurqnd@gmail.com）までご一報いただければ幸いです。

調査方法

調査対象者 : 礼文町に住む 18 歳以上の住民のうち、【I 期】 奮部・高山【II 期】 津軽町・会所前・入舟・尺忍・大備第一・大備中央・大備第三・大備湖畔の全 10 自治会加入 657 世帯（礼文町の全 29 自治会加入 1233 世帯の **53.3%**）

調査対象の自治会 : I 期 奮部 高山
II 期 津軽町 会所前 入舟 尺忍
大備第一 大備中央 大備第三 大備湖畔
計 10 自治会

調査時期 : I 期 2017 年 6 月
II 期 2017 年 9 月 - 10 月

調査方法 : アンケート調査

配布方法 : 回覧板を通じて自治会加入の各家庭に配布

配布数 : I 期 38 世帯 76 部
II 期 619 世帯 1238 部
計 657 世帯 1314 部（調査対象 657 世帯に 2 部ずつ配布し、世帯の代表者 2 名が回答する方式を採用）

回収方法 : I 期 自治会長による回収
II 期 郵送による回収

回収数 : I 期 36 世帯 53 部
II 期 205 世帯 315 部
計 241 世帯 368 部

回収率（世帯） : I 期 94.7%
II 期 33.1%
計 36.7%

（礼文町全世帯の 19.6%。全世帯の 5 人に 1 人、全町民の 14%³が本調査に回答している）

³ 平成 29 年 10 月末現在

集計の方法⁴

- 選択式の設問は、集計結果を円グラフで表示した。
- 自由記述の設問は、形態素解析⁵した上で、ワードクラウドと共起ネットワークを示した⁶。ワードクラウドと共起ネットワークの描写を用いても解釈が難しいものについては、代表的な回答をいくつか掲載した。
- 自由記述のテキストデータは、http://chiikiokoshi.hatenablog.com/entry/2017rebun_report 上にすべて公開している。

集計結果の要約

- 地域おこしに「興味がある」「どちらかといえば興味がある」と回答した地域住民は全体の 53%であった。
- 協力隊等の外部人材に「期待している」「どちらかといえば期待している」と回答した地域住民は全体の 57%であった。
- 地域住民が外部人材に期待する内容については、主に(1)島外からの視点に期待する意見(2)定住に関連する意見(3)外部人材への要望(4)既存の島民にも配慮すべきという意見(5)外部人材に慎重な意見、の5つが見られた。
- 地域住民が実際にやってみたいイベント等の新しいこととしては、「フリーマーケット」「ビアガーデン」「音楽フェス」「冬のお祭り」「カフェ」等が挙げられていた。
- 地域住民があったら利用する店は、「カラオケボックス」「ホームセンター」「ドラッグストア」「洋食」「映画」「カフェ（喫茶店）」等が挙げられていた。

⁴ 自由記述の集計結果の見方については巻末の付録を参照。

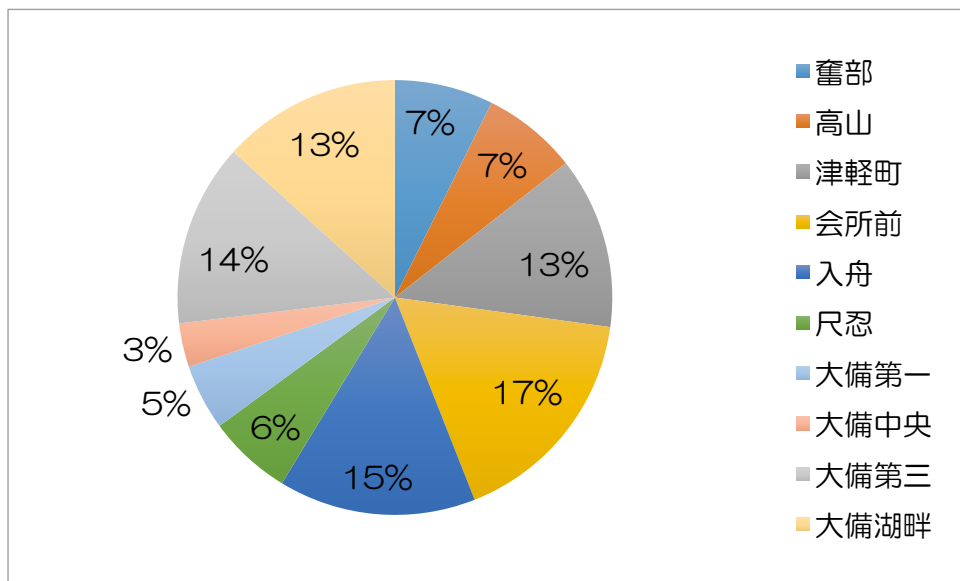
⁵ 形態素解析とは、文章を形態素（言語で意味を持つ最小単位）に分割する手法のことである。解析には MeCab を用いた。

⁶ ワードクラウドの描画には Python のライブラリ wordcloud を、共起ネットワークの描画には KH Coder を使用した。

ご自身について

回答者の自治会

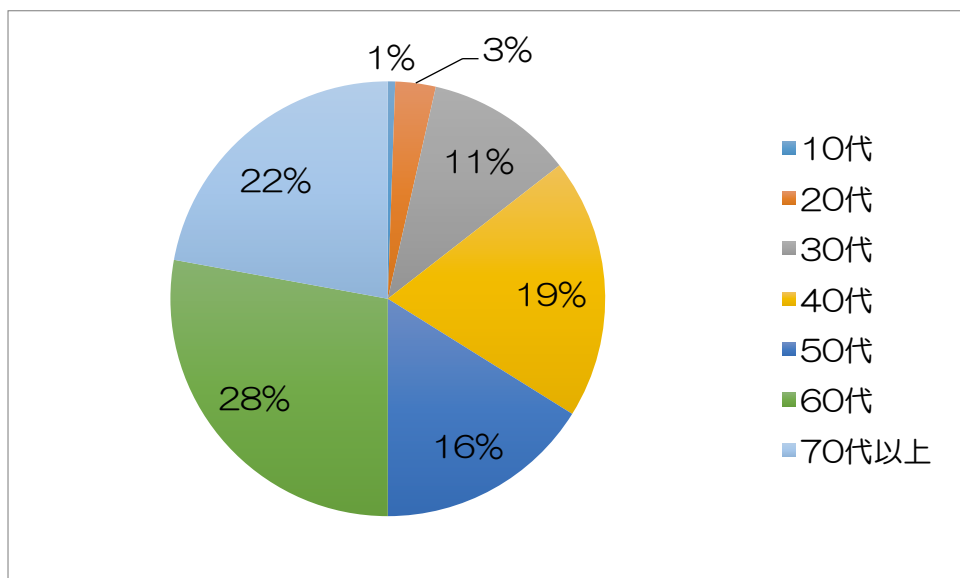
(N=368)



問1-1. 年齢

回答者の 50%が、60 代以上を占めていた。

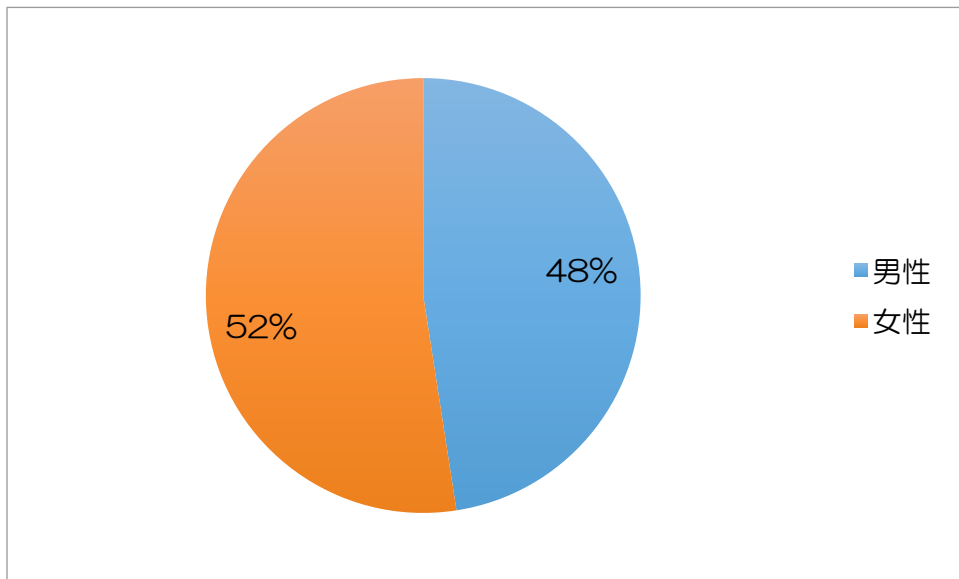
(N=366)



問1-2. 性別

回答者の男女比率はほぼ 1:1 であった。

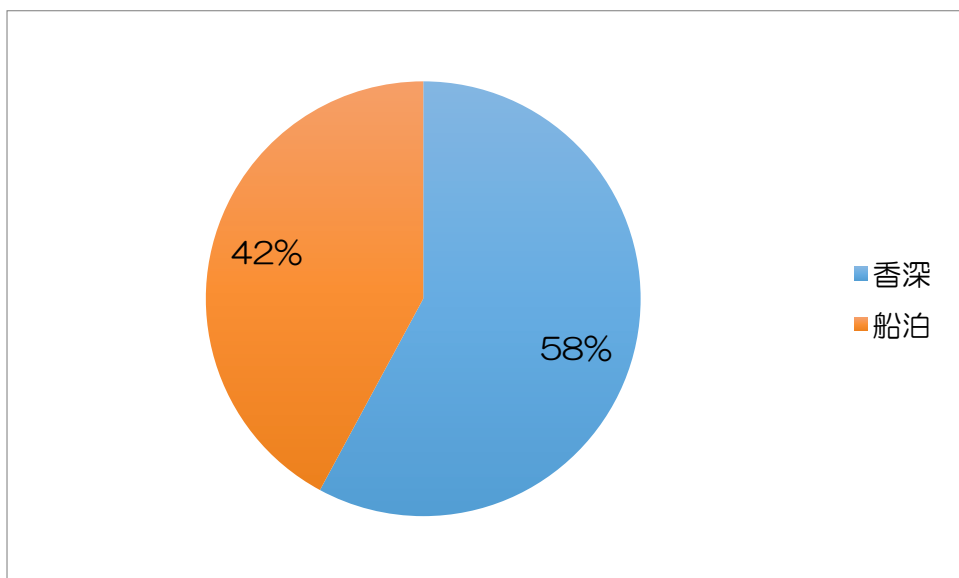
(N=368)



問1-3. 居住地域

回答者の移住地域は香深 6:船泊 4 であった。

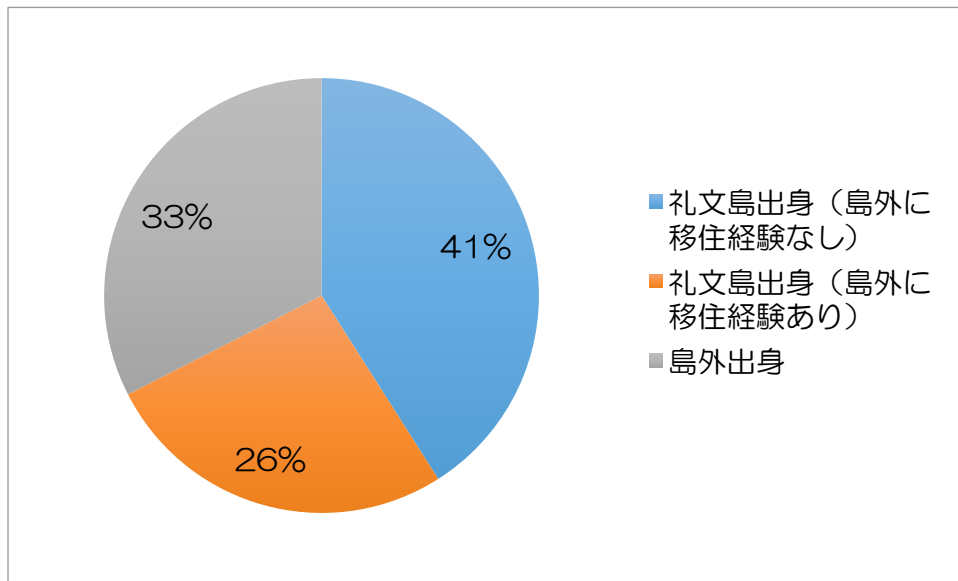
(N=368)



問1-4. 出身地

回答者の67%が島内出身者、33%が島外出身者であった。

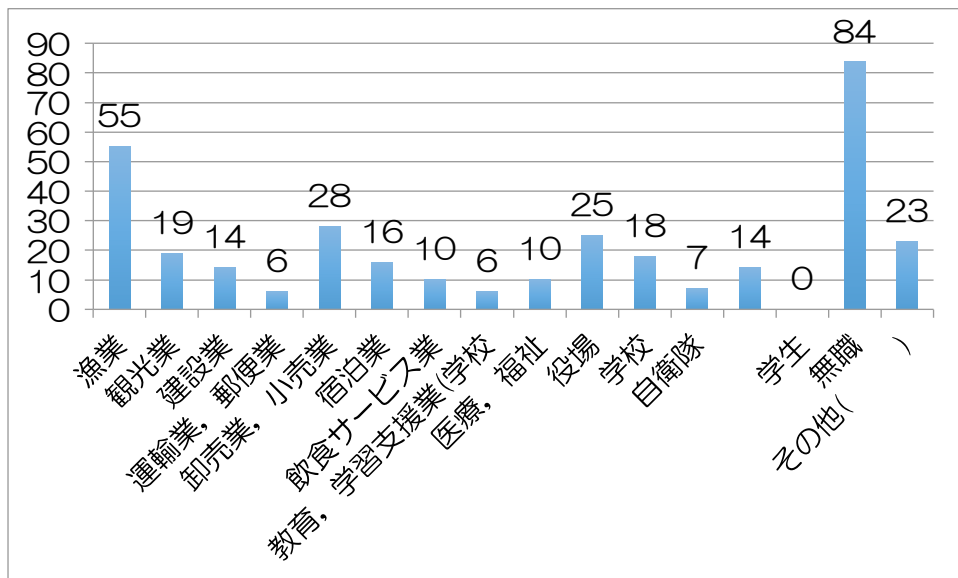
(N=366)



問1-5. ご職業 掛け持ちの場合は、ご自身が従事している時間がもっとも長い職業1つに丸をつけてください。（パートの場合も、該当する職種に丸をつけてください。）

回答者は無職（主婦含む）、漁業が多かったものの、各職業の回答が得られた。

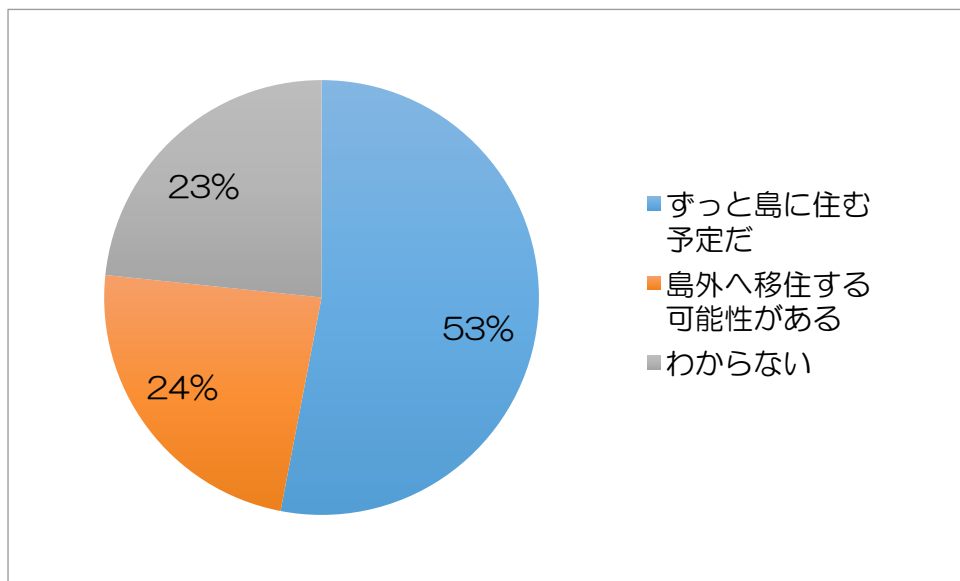
(N=335)



問1-6. 今後の礼文島の滞在見通し

「ずっと島に住む予定だ」が全体の 53%を占めていた。

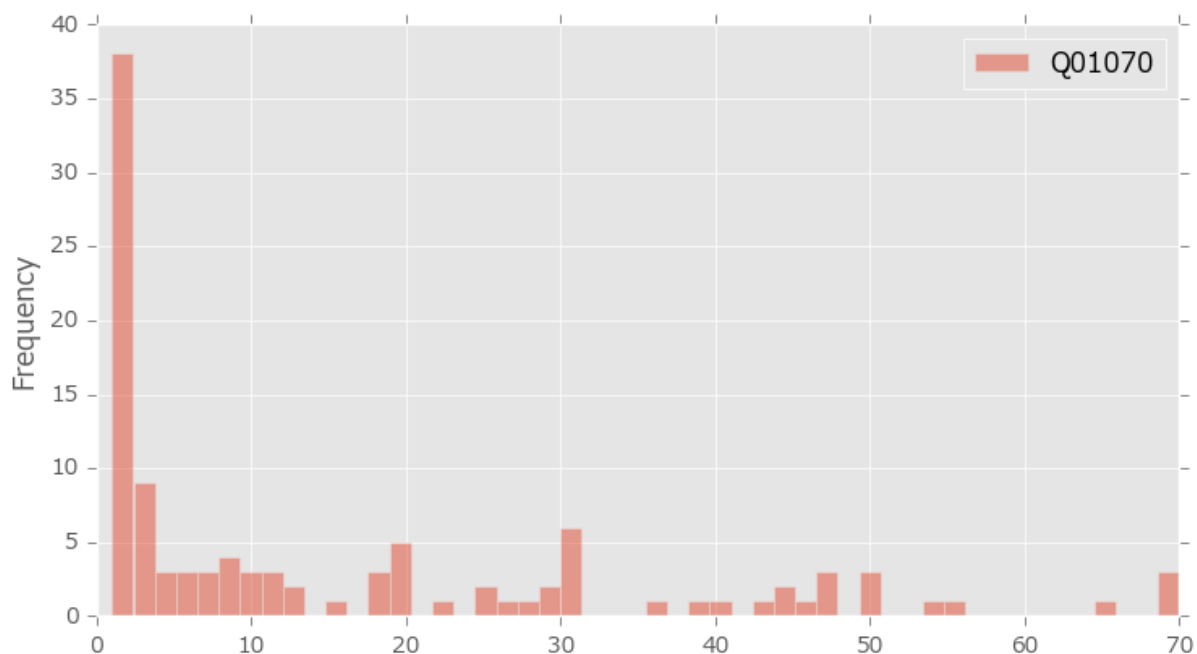
(N=364)



問 1-7. (島外からの移住者のみ) 礼文島に移住して何年ですか。

移住して 10 年目未満の回答者が全体の 55%を占めていた。また、移住 3 年目未満の回答者が全体の 35%を占めていた。(横軸：何年目か 縦軸：回答者数)

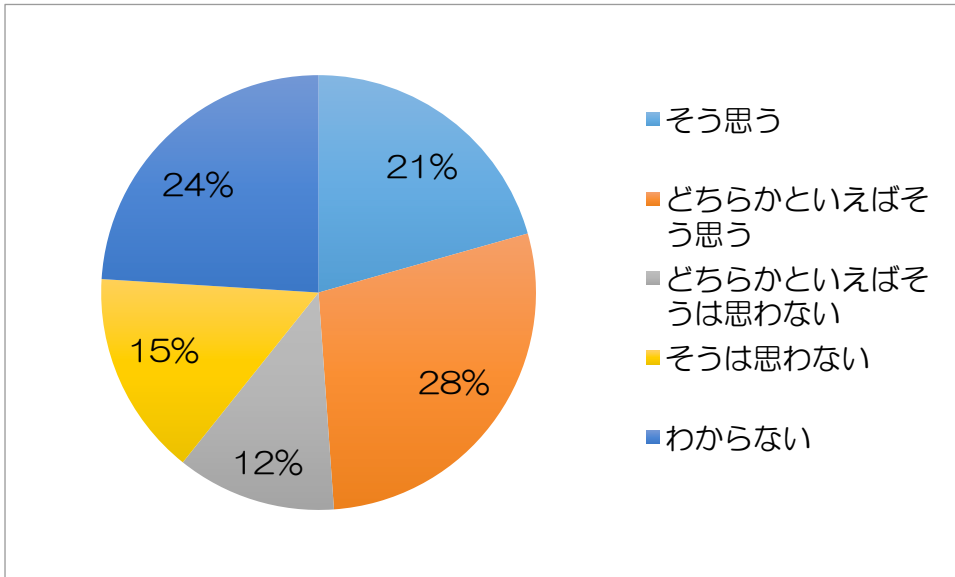
(N=109)



「地域おこし」について

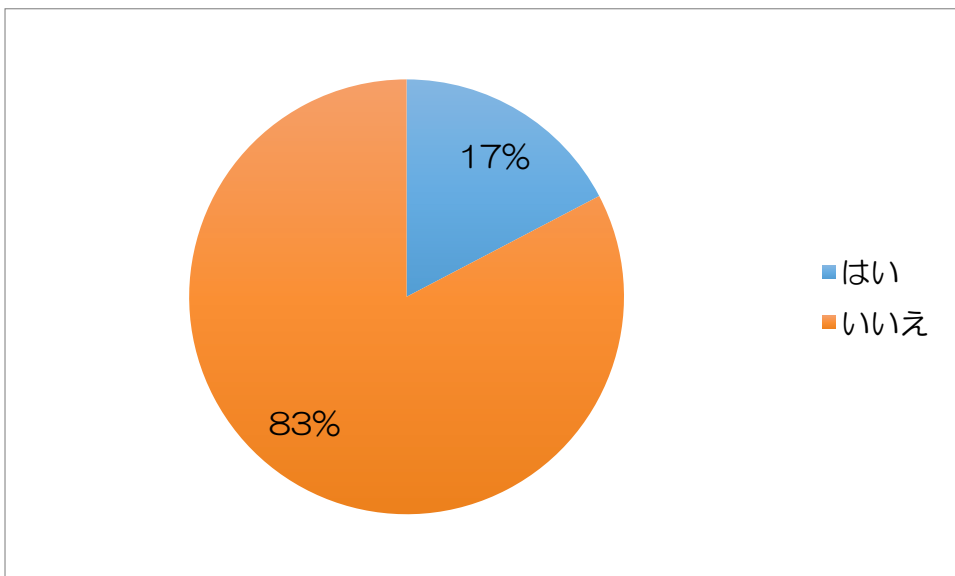
問 2-1. 地域の仕組みや地域の雰囲気は自分や仲間の力で変えることができますか。
「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が全体の 49%を占めていた一方、「どちらかといえばそうは思わない」「そうは思わない」「わからない」は全体の 51%を占めていた。

(N=354)

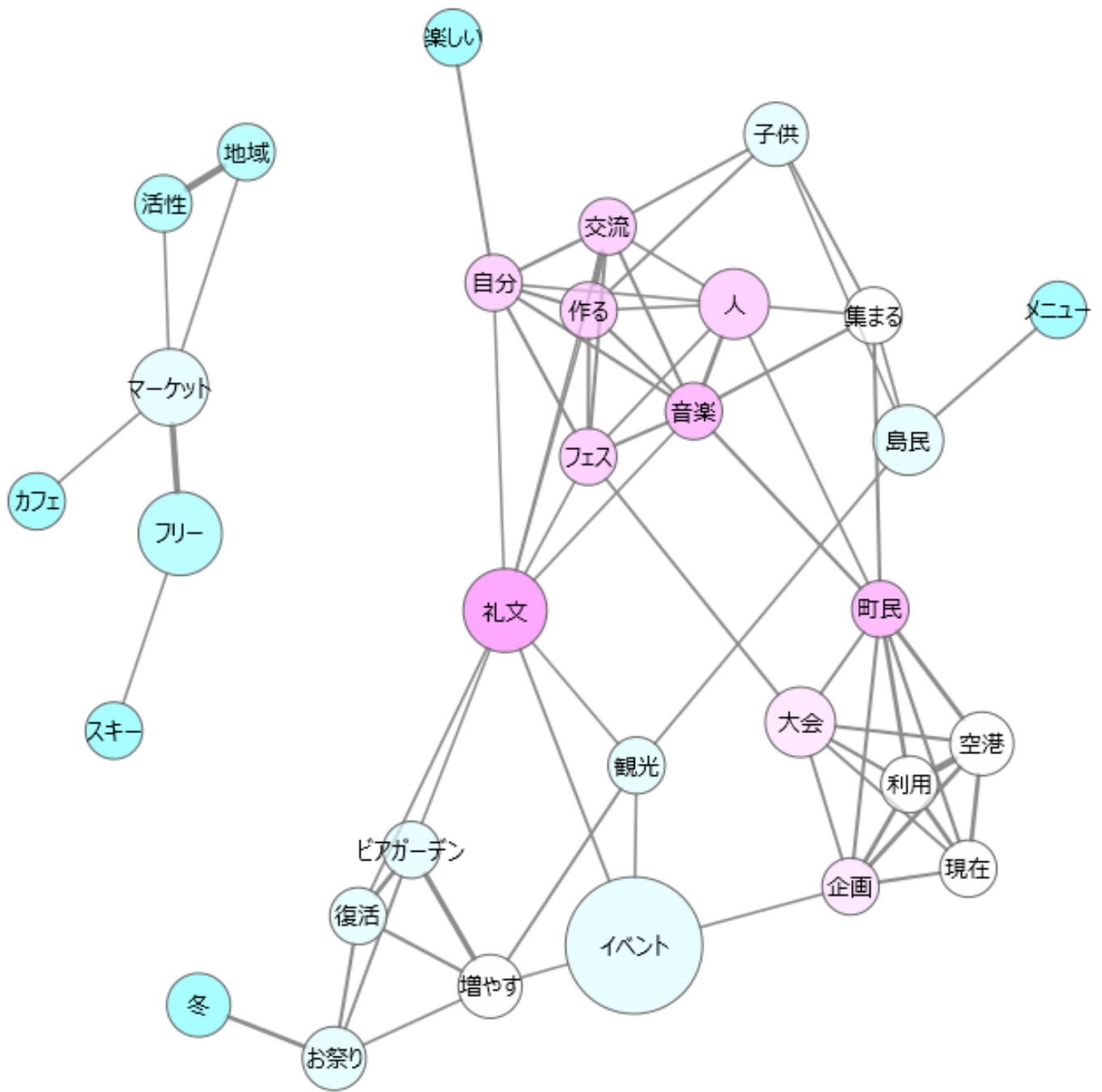


問 2-2a. あなたは今現在礼文町でイベント等何か新しいことをやってみたいと思いますか。
「はい」と回答した人は全体の 17%にとどまった。

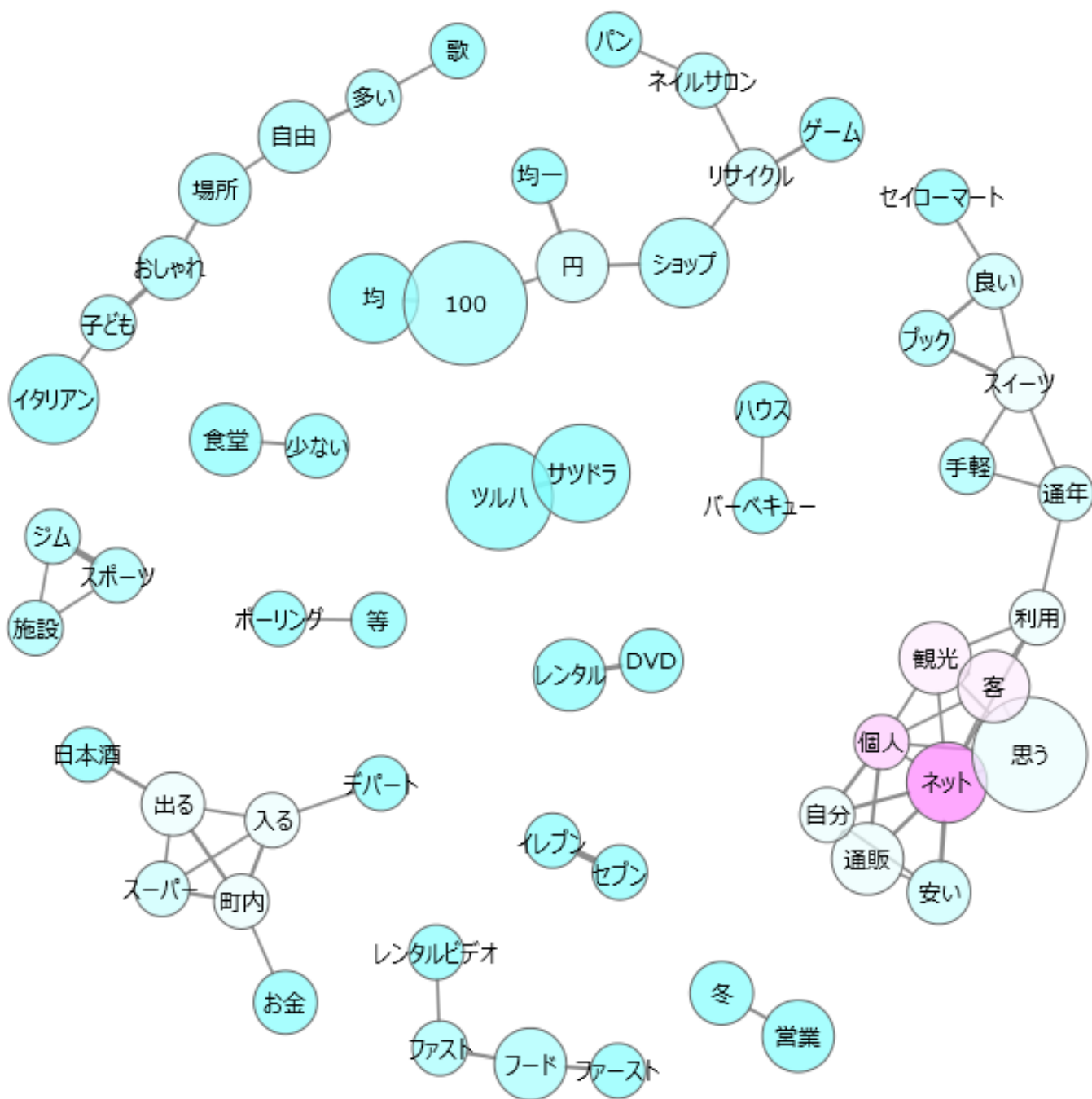
(N=352)



語の共起ネットワーク



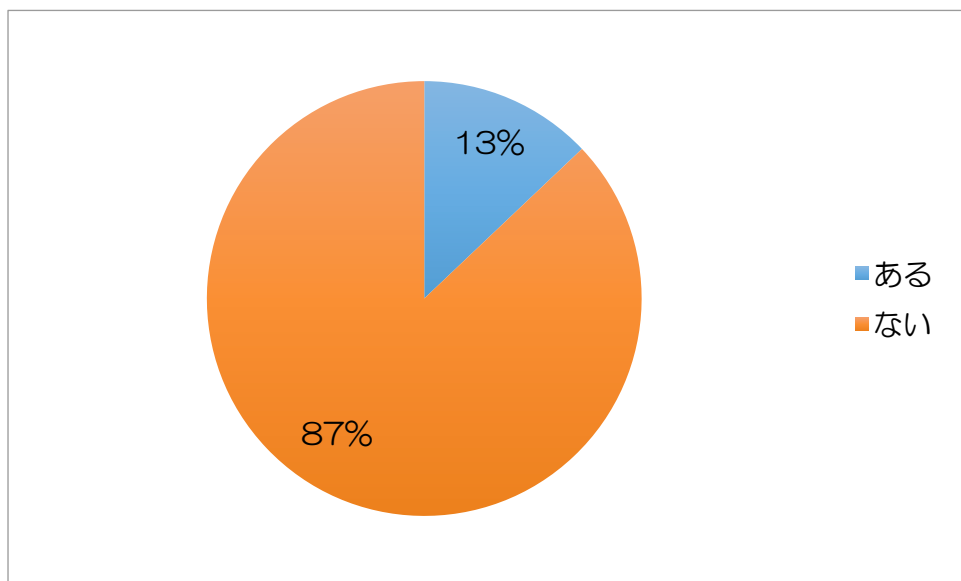
語の共起ネットワーク



問 2-4a. 現在、ご自身が実際に企画あるいは実行している地域の活動（イベント等）はありますか。

全体の13%、46名の回答者が「ある」と回答した。

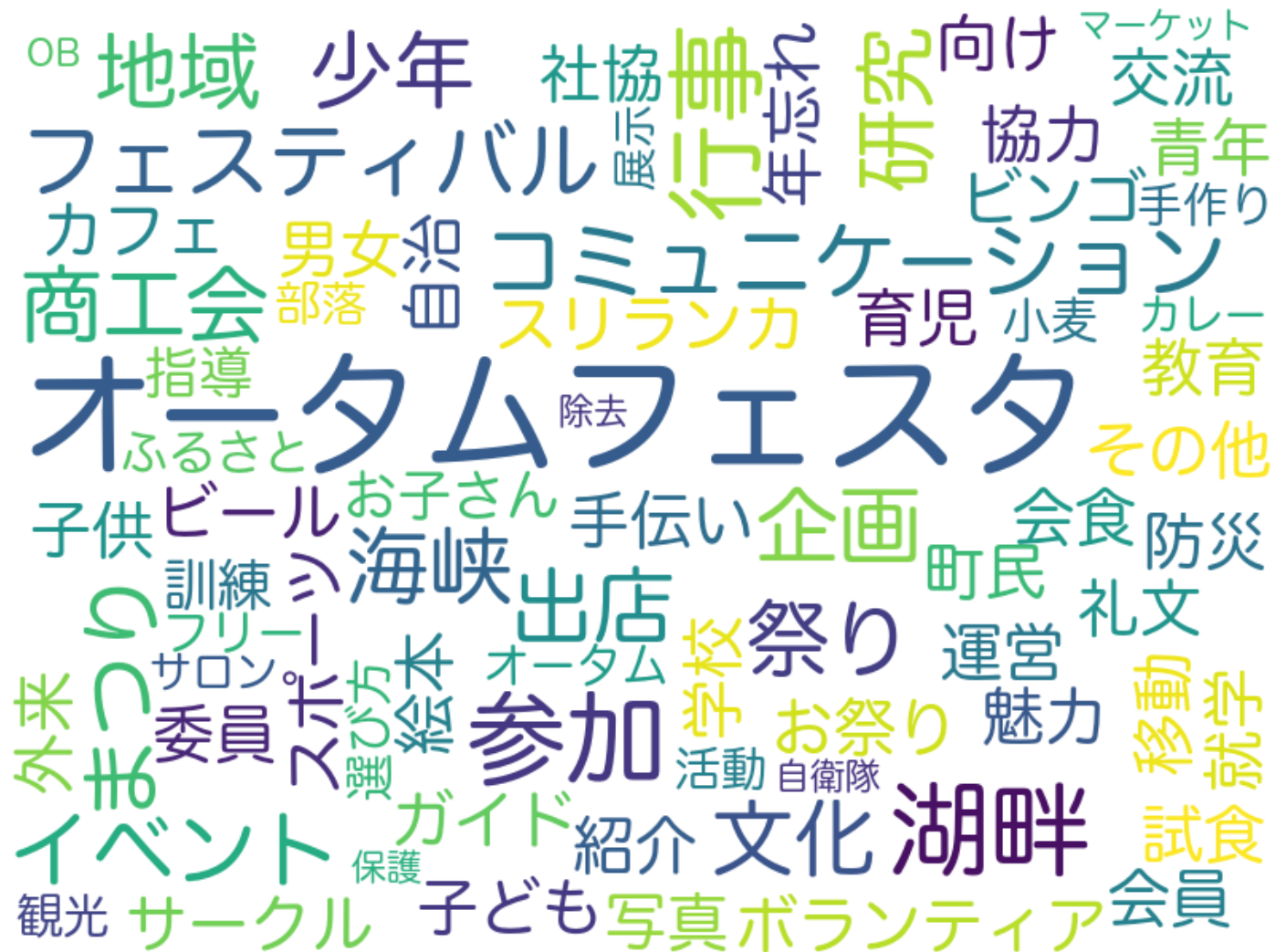
(N=356)



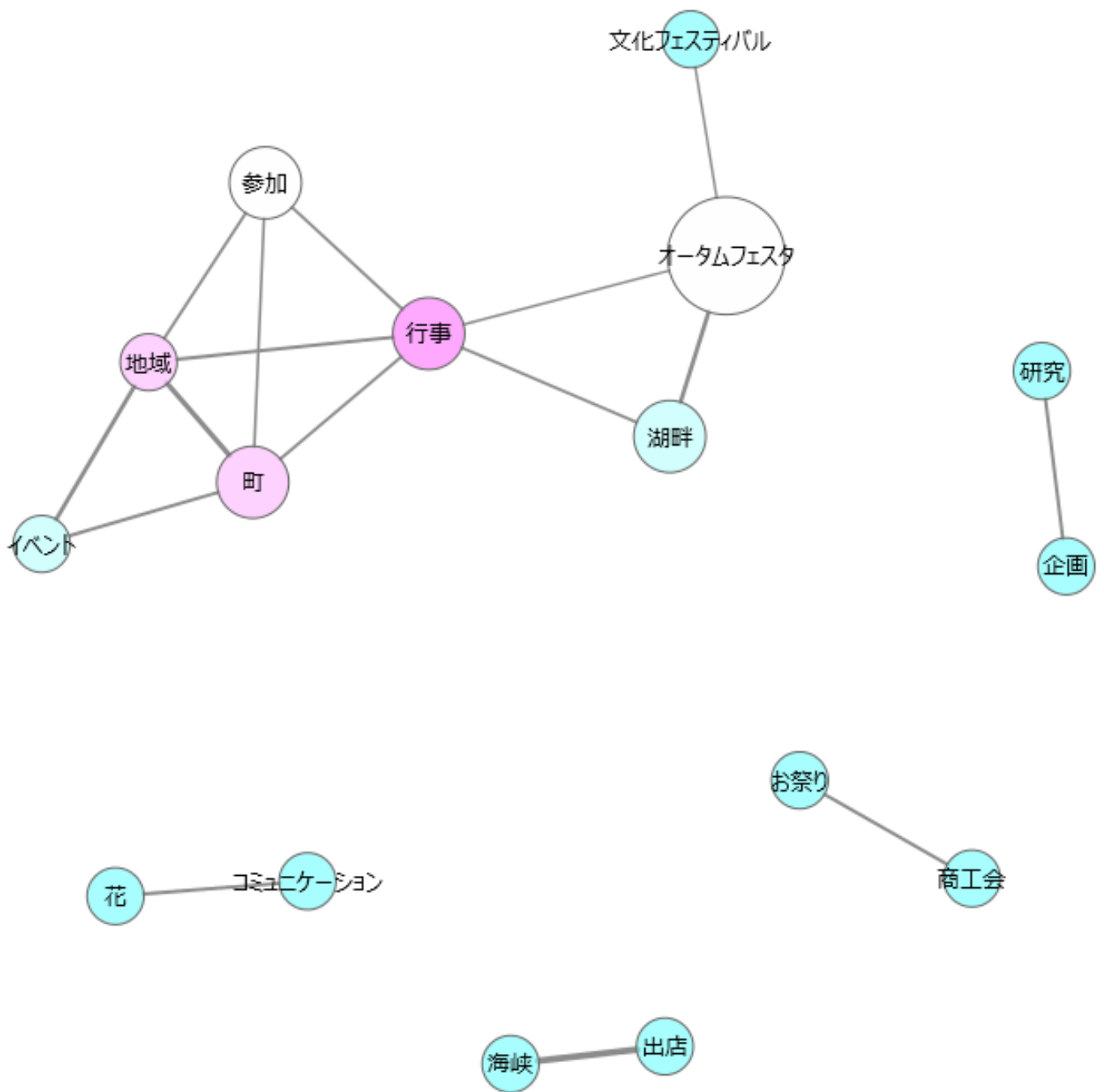
問 2-4b. それはどのようなものですか。お答えのできる範囲で教えてください(自由記述)。

「オータムフェスタ」「湖畔祭り」「海峡祭り」「文化フェスティバル」などの記述が複数みられた。

ワードクラウド (自由記述から頻出の名詞を抽出)

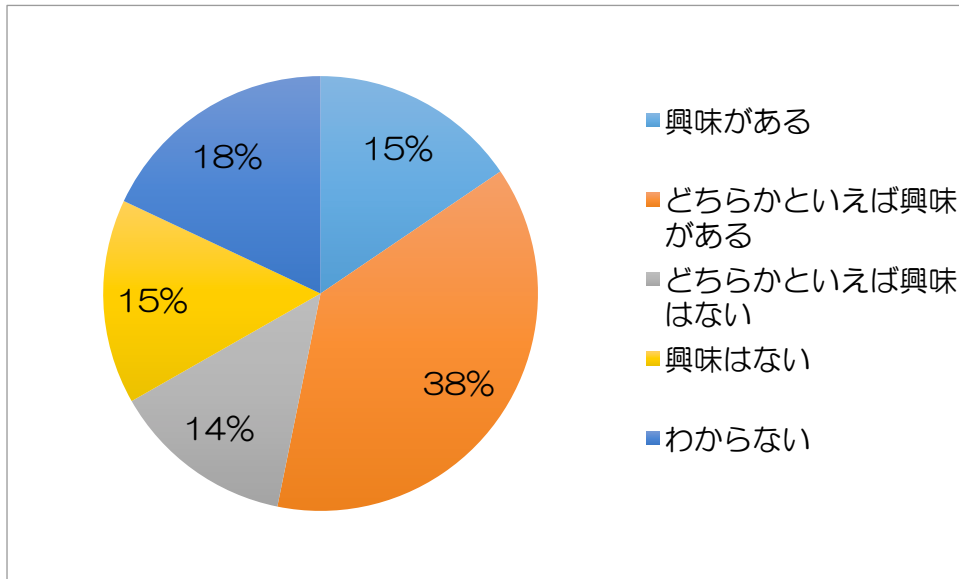


語の共起ネットワーク



問 2-5. あなたは礼文島の「地域おこし」に興味がありますか。
回答者の 53%が「興味ある」「どちらかといえば興味がある」と回答した。

(N=361)

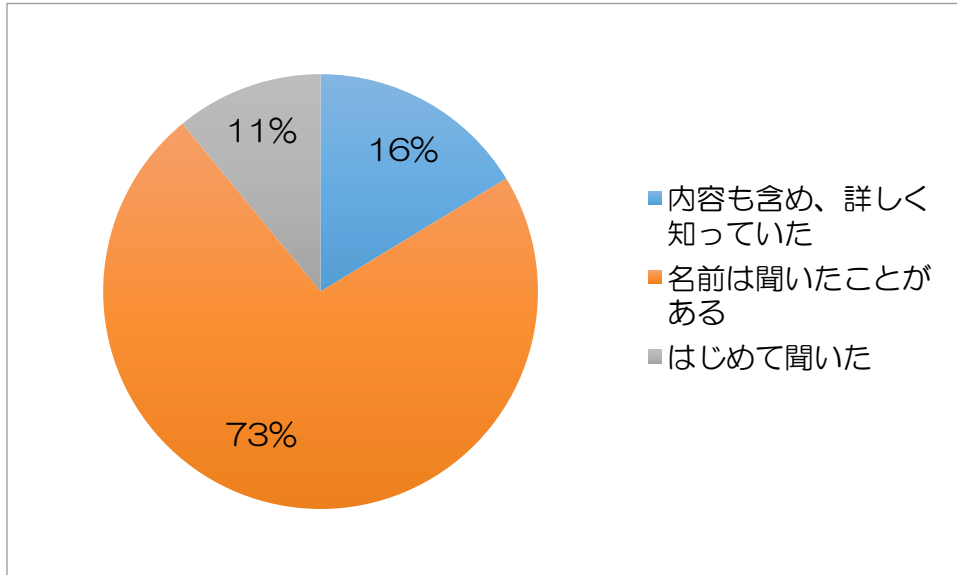


「地域おこし協力隊」について

問 3-1a. 現在礼文町は、都会から地域に人材を呼び込み、定住してもらうための施策である「地域おこし協力隊」事業を実施していますが、あなたは協力隊事業のことを知っていましたか。

回答者全体の89%が、「名前は聞いたことがある」程度を含めて知っていたと回答した。

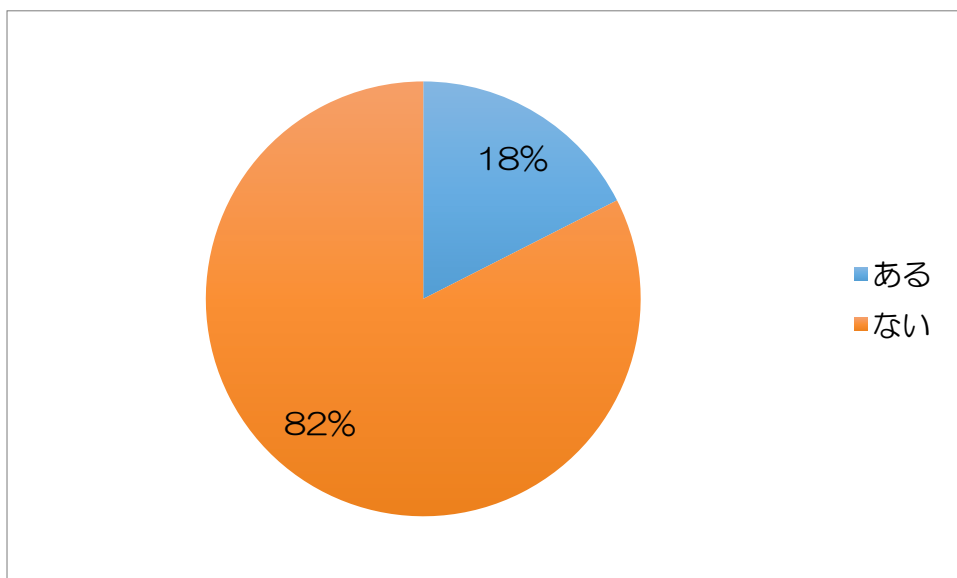
(N=356)



問 3-1b. あなたは礼文町で活動する「地域おこし協力隊」と実際に関わったことはありますか（仕事・プライベート問わず）。

協力隊と関わったことが「ある」とした回答者は、全体の18%にとどまった。

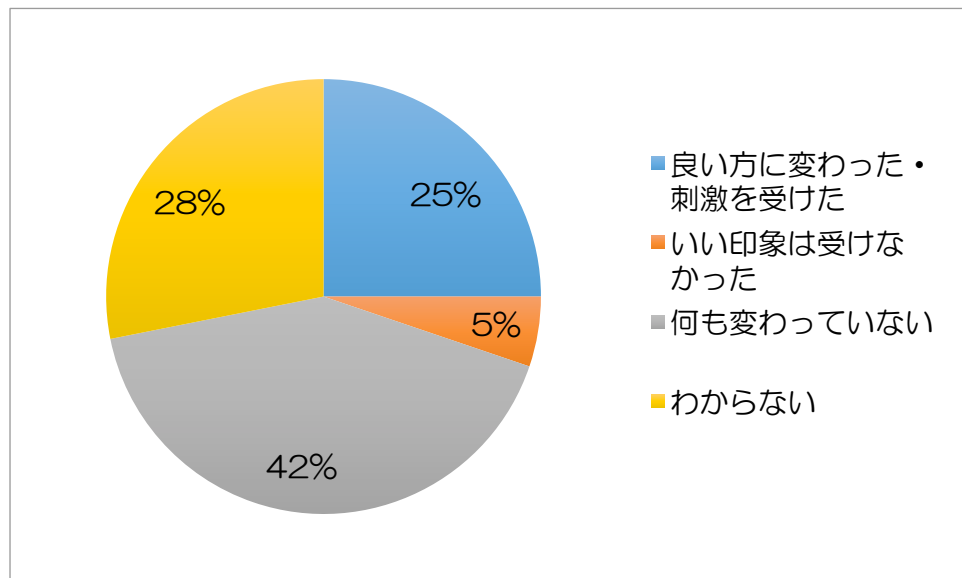
(N=354)



問 3-1c. 「協力隊と実際に関わったことがある」と答えた方に伺います。協力隊員と接していく中で、ご自身の意識は変わりましたか。

回答者の25%が「良い方に変わった」とした一方で、42%が「何も変わっていない」、28%が「わからない」と回答した。

(N=96)



問 3-1d. 変わった点について、具体的な内容を教えてください（自由記述）。

「島民以上に積極的に事業に取り組んでいる姿に刺激を受ける」「礼文島を知ってもらうため、色々頑張っているのを見て、私も全国の人に知ってほしいと思うようになった」「さらに礼文島が好きになった」「礼文島を盛り上げていこうという意識が高まった」「（筆者注：協力隊制度が）本当に定住につながるとは思えない」などの意見が寄せられた。

ワードクラウド（自由記述から頻出の名詞・形容詞を抽出）



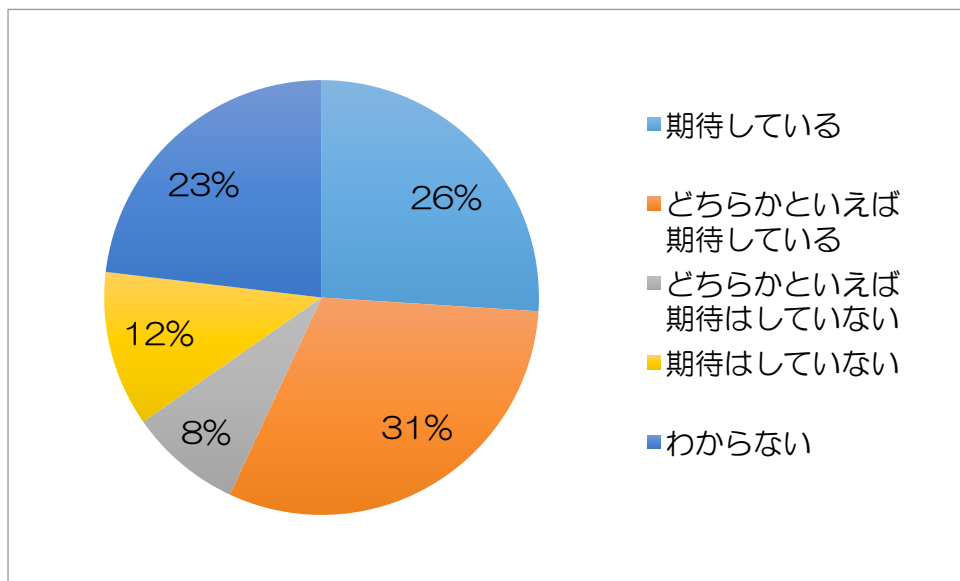
語の共起ネットワーク



問 3-2. 協力隊等、外部から来た人材に対して期待しますか。

回答者全体の 57%が「期待している」「どちらかといえば期待している」と回答した。

(N=346)



問 3-3. 差し支えなければ具体的な内容を教えてください（自由記述）。

寄せられた意見は、大まかに以下の 5 つに分類できた⁷。

(1) 島外からの視点に期待する意見：

「新しい視点で何かやって！！」「町から来た人に島にない事を期待する」「礼文島に新しい風を取り入れてほしいです」「地域のしがらみに囚われない新しいイベント」「移住者が増えて、色々なイベント・お店が増えてほしい」「既成概念にとらわれない視点で礼文を見ること」

(2) 定住に関連する意見：

「仕事をし、定住してくれること」「定住による人口増加、漁業従事者増加」「礼文を離れても島を PR してもらい、定住者が一人でも多く来るよう協力してほしい」「若い人が増えて、結婚もして子どもも増やしてほしい」「定住につながるような、仕事や居住が本当にできているか疑問」

(2) 外部人材への要望：

「礼文島でしか買うことのできないお土産。（利尻島には負けない特産物で礼文島を代表する様な物）の開発・販売」「夏季は様々な活動をしている事は知っていますが、冬にも何か子供達が楽しめるイベント活動をしてほしい」

(4) 既存の島民にも配慮すべきという意見：

「協力隊の方々が来て頂くことはとても嬉しいことですが、礼文町出身者の若者や礼文に戻って働きたいという人達、又は結婚した人たちが住める場所がないのはとても残念です。協力隊の配慮も大切ですが、礼文町民への配慮も、もう少しして頂けると島に残ってくれる若者も増えもっと良くなるのではないかなと思います」

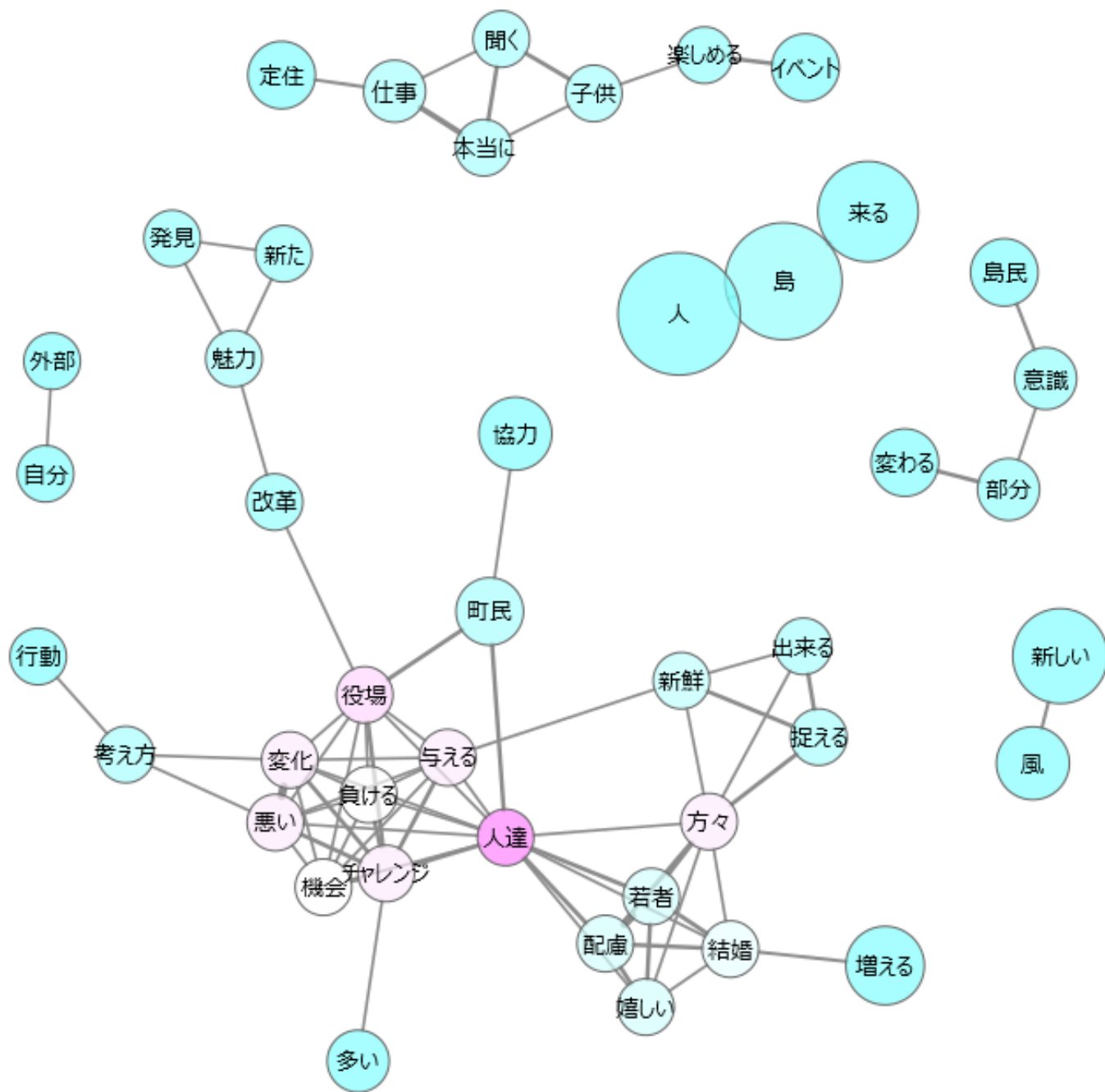
(5) 外部人材に慎重な意見：

「島民の意識が変わって欲しい部分と変わって欲しくない部分。システムが変わらないとダメな部分、色々

⁷ 5 つの分類以外の意見を含めたすべての意見は

http://chiikiokoshi.hatenablog.com/entry/2017rebun_report 上に公開している。

語の共起ネットワーク

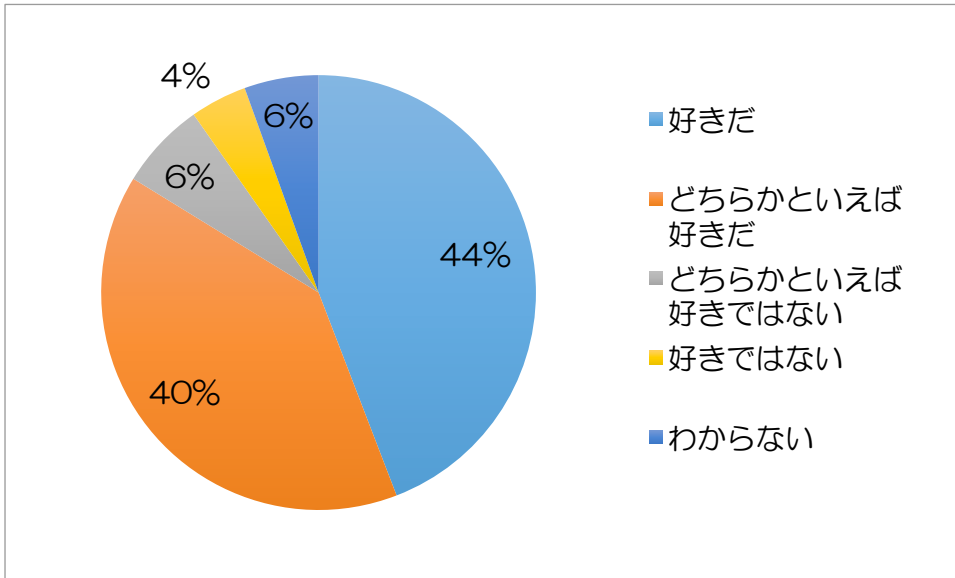


礼文島の社会関係資本について⁸（Ⅱ期のみ質問）

問 2-6. あなたはご自身が住む地域が好きですか？

「好きだ」「どちらかといえば好きだ」とした回答者が全体の 84%を占めていた。

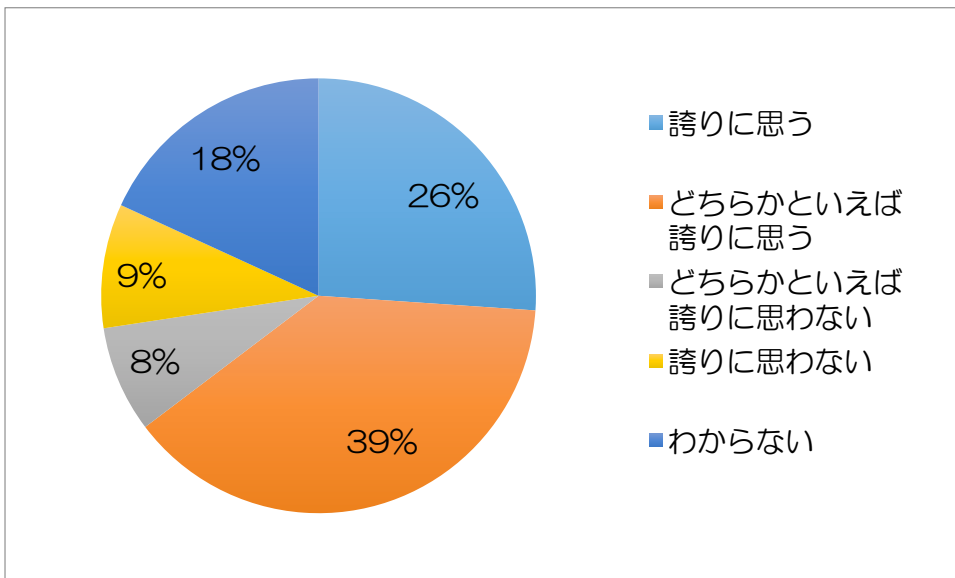
(N=308)



問 2-7. あなたはご自身の地域を誇りに思いますか？

「誇りに思う」「どちらかといえば誇りに思う」とした回答者が全体の 65%を占めていた。

(N=303)

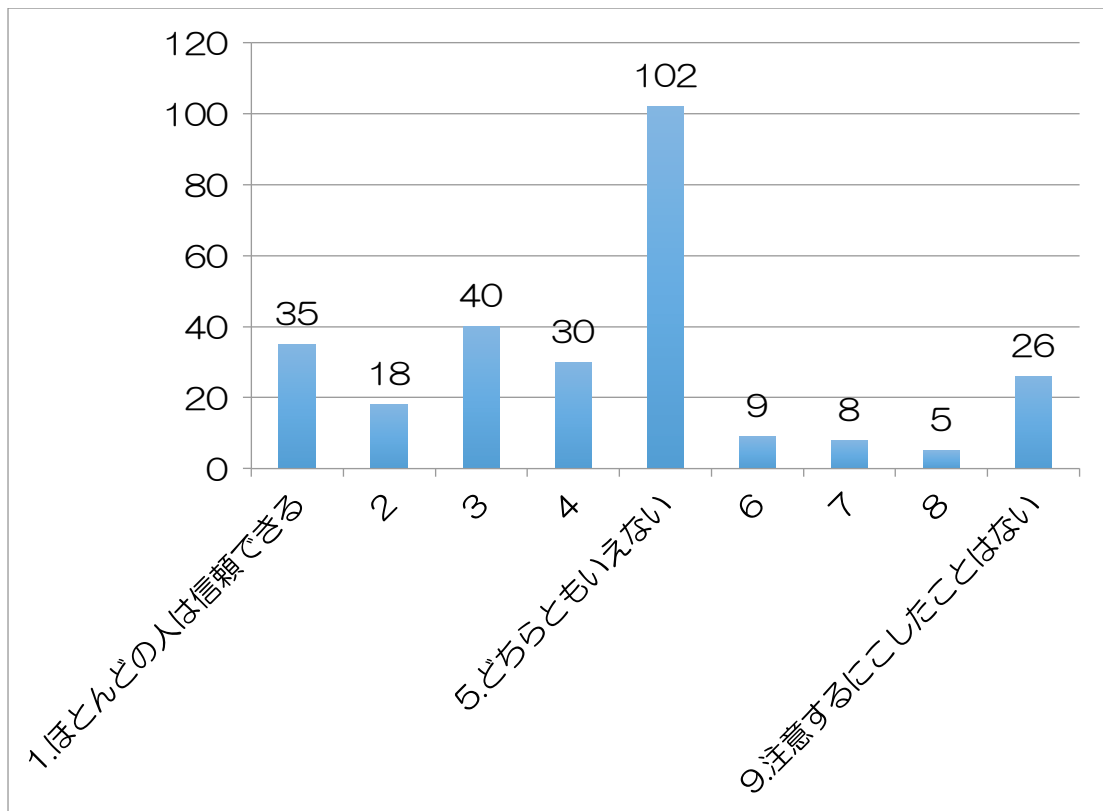


⁸ 社会関係資本(Social Capital)とは、社会・地域における人々の信頼関係や結びつきを資本として捉えた概念。

問 4-5. 一般的に、他人を信用することはできますか？1~9の数字でお答えください。

回答者の37%が「どちらともいえない」と回答した。

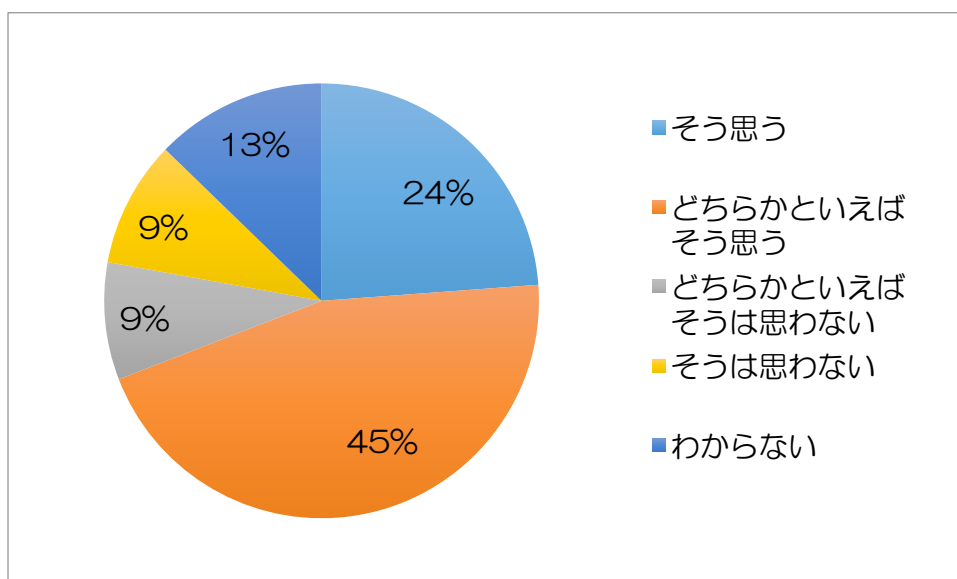
(N=273)



問 4-6. 地域の方は、互いに信頼できる人々であると思いますか？

回答者の69%が、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した。

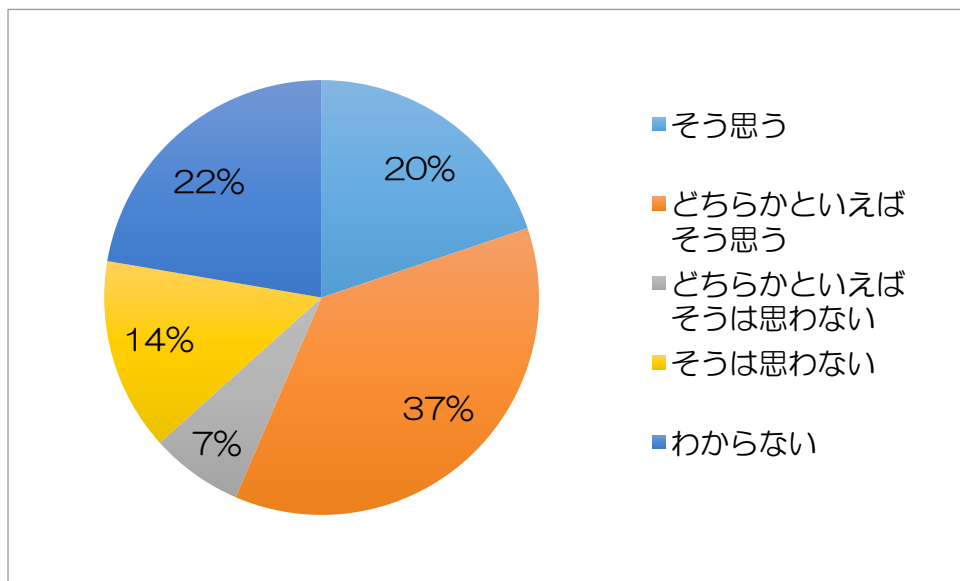
(N=298)



問 4-7. ご自身に何かあった時、地域の人々に助けてもらえると思いますか？

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が回答者の 57%を占めていた。

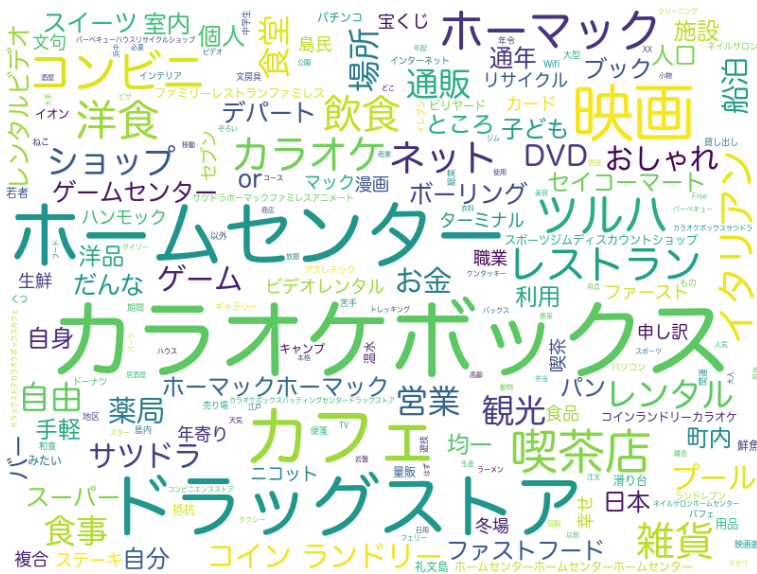
(N=363)



付録 自由記述の集計結果の見方

1. ワードクラウド

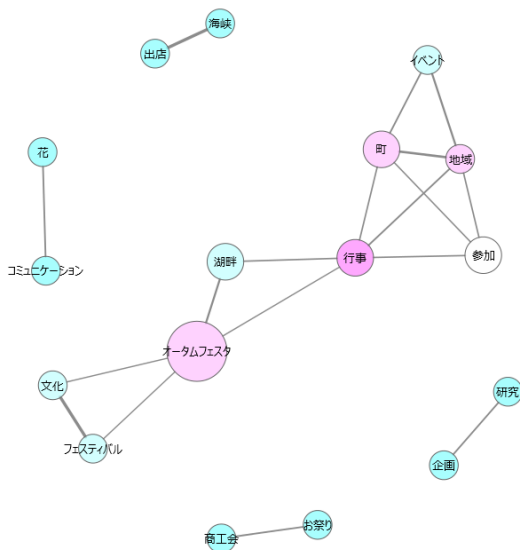
(図 1)



ワードクラウドとは、文章中で出現頻度が高い単語を複数選び出し、その頻度に応じた大きさで図示する手法である***。図 1 では、「カラオケボックス」「ホームセンター」などが頻度の高い単語であることが一目でわかる。

2. 共起ネットワーク

(図 2)



語の共起ネットワークは、形態素解析した単語同士の共起関係を図示したものである。丸は単語、丸の大きさは単語の頻度、線は単語同士のつながり（共起関係）、色は次数中心性の大きさ（ある単語が他の単語とどれだけ結びついているかを基にした中心性の指標。色は【次数中心性小】白→水色→ピンク色【次数中心性大】の順で変化する）を表している。

図 2 では、たとえば「文化」と「フェスティバル」はある文章中に同時に出現しているためつながっており、「オータムフェスタ」を結節点として他の単語ともつながっていることがわかる。

*** デジタル大辞泉より